

## 奄美市世界自然遺産プラットフォーム 第1回公民連携会議

日時：令和4年5月29日（日）14：00～17：00 @奄美市役所5階会議室

参加者（敬称略）

委員：喜島浩介、久野裕子、栄ヤスエ、須山聡、常田守、服部正策、濱田政信、久伸博、

久留ひろみ、麓憲吾、松山さおり、宮田夏弥、恵枝美、山下久美子

事務局：平田課長、中村補佐、有川、神田、出口（安田市長、徳永部長）

マスコミ：南海、奄美、南日本、朝日、毎日、読売、共同、NHK、TBS、MBC、KTS

### 【市長挨拶】

2003年に奄美が世界自然遺産候補地に選定をされた時、期待とともに危機感を感じた。

たくさんメリットもあるが、様々な対策を行政が民間と一緒にやっていかないと、デメリットのほうが大きくなって、様々な宝が台無しになってしまうんじゃないかと、そういう思い、衝撃を感じたことを覚えている。

そこから自分自身が色々考えて、将来島に帰って政治を志そうと思った大きな出来事であった。

国内の世界遺産登録地を回った際、地域の方々に「世界自然遺産になってよかったですか」と聞いたことがある。すごく印象的だったのは、遺産登録が良かったと思えるように努力していきたいという答えを何人もの方からいただいた。

絶えず様々な努力をしていくことが、もう本当に終わりのない部分だと思うけれども、それに向かって頑張っていくというそのプロセス、それが世界自然遺産の価値じゃないかなと。

そして、この奄美を政治や行政だけではなく、文化や経済の方々も含めてそういう地域づくりを目指したいということで、このプラットフォームを作らせて頂いた。

私自身も、昨年のマニフェストに世界自然遺産プラットフォームを書かせていただいた。本当に

大事な、肝入りの取組だと思っているので、ぜひ皆さんと一緒に盛り上げていきたい。

この場をオープンでフラットな会議として、あらかじめ皆様から頂いている話したいテーマを含め、そしてまた今回、公募に応募していただいたが残念ながら参加出来なかった方々の、提出されたテーマについてもお目通しいただき、議論する機会もあればなというふうに思っている。

また、今回は14名のうち男女が半々ということで、奄美市が行う様々な審議会とか会議とかでも、やはり少しずつでも男女の比率を等しくしていこうと。

このプラットフォーム会議は年6回と限られているが、是非皆様が主体的になって、1年過ぎた後にもOB会、OG会などとして、このつながりを大事にしていただき、継続できるように我々も頑張っていきたいと思いますので、御理解、御協力をお願いしたい。

私も本日は参加させていただいたが、毎回来ても皆様お話しにくいこともあるかもしれないので、そこは必要に応じて呼んでいただければ参加するようにしたい。

#### 【メンバー自己紹介】

割愛

#### 【座長選任】

立候補・推薦なし。事務局提案により須山先生を推薦、異議なしで座長選任。

#### 【概要説明】

事務局が要綱、イメージ図に基づき説明。

#### 質疑

**濱田**：テーマAの年度内ゴールというのは、実施がサクッとできて年度内に何とか実行できる案。

テーマB、Cに行くによって、ある程度みんなでブラッシュアップしていきながらやっていくという。そういう流れという事でよろしいか。

**事務局：**そのとおり、テーマAは、私どもが実施計画に載せたりとか、あるいは予算化できるものとなってきますので、そうすると8、9月くらいまでに関係部課と調整をしないと予算化が難しいところがある。

**濱田：**それでは、この参考資料3はきれいにカテゴライズされているのは承知しているが、これを一度分解して、テーマA、B、Cごとに分けると見やすくなるのではないか。また、この中で思想・想いというもの。根底を支える考え方もカテゴライズしたら良いのでは。

**事務局：**事務局の方でこのたたき台をお出しして、いろいろ皆さんの意見を伺ってたたいていただくつもりで出している。このままでやるつもりは全くない。そういう意見をどんどん出していただいて、整理をしていただければと思います。

**須山（以下、座長）：**テーマA、B、Cというのは、スケジュールの都合上で分けられるっていうこと。

この会としてはそれに特にこだわる必要なく、むしろ、皆さんの中で、何か似通ったテーマを持ち寄って、やったらどうか、というような御意見もあるのではないかと思います。

カテゴライズと言うと、例えば自然であるとか、文化だとか、歴史であるとかそういうテーマ主義だと思う。

**事務局：**やり方については、皆さんで自由に決めていただければと考えている。

#### 【提案テーマ確認】

割愛

## 質疑

**座長：**皆様からのテーマを一通り聞き、これからどういう風に進めるかですが、二本立てではないかと思う。

1つは締切りが決まっているもの。予算要求しなきゃいけないほうについてはやっぱり優先的に話をしないとイケない。もう一つはもうちょっと長い目で、世界遺産をどうのように考えたらいいいのか。例えば自然環境のほうの在り方、観光の在り方、人材育成、いろんな問題がありそうだっていうことが分かったのでは。どうでしょうか。

(異議なし の声)

**座長：**それでは、もう次の会議の議題を決めなきゃいけないわけですね。差し当たりやらなければいけないこと、なんでしょう。

皆さんのお話を伺っていると、例えば1番最初(山下)に出てきた入島税の話なんていうのは、来年度から始められるものなんでしょう。

**山下：**急ぎたいですが、時間がかかるのではないか。例えば検討会の開催に係る費用などを予算につけられるようであれば非常に有難い。

**事務局：**実施計画ってというのはその1年ですということではなくて、例えば3年後にするまでのこのスケジュール感を作るという方法もありますので、来年度予算は無理にしても例えば、今年度これやって、来年度これやって、再来年ぐらいにこういう形を作るということも大切。そういう意味でも、予算化だけにこだわるということではない。

**座長：**ほかの皆さんにも理解をしていただきたいが、こうなってほしいと、ただ単に漠然と言われると「ああそうですね」で終わってしまう。私はこうしたい、こういうものが作りたい。とい

う事を言ってほしい。

**喜島**：常田さんが話したように、タンギョの滝など新しい観光コースを作りたい。そのためにはどのような調査が必要か、そのような話を進めていくほうが話しやすい。

**座長**：次回の議題としましょう。次回は常田さんに、プレゼンテーションをしていただきたい。それから山下さんは、入島税のプランをプレゼンテーションしてください。

**常田**：プレゼンの際は、コアメンバー以外の参加もお願いしてよろしいでしょうか。

**座長**：問題ないのでは。関連して、これは後からお諮りしようと思ってたのですが、この会議は次回以降は市民の皆さんへも公開するという事でよろしいですか。

(そのほうがいい の声)

**座長**：了解した。話を戻すが、観光客の分散化については今のうちにやっておかないと、オーバーツーリズムになってからでは全然遅いので、そのときは本当に人を入れられなくなってしまう。今のうちに、やっぱり早く考えて。議論の優先順位は高いのではないか。

次のテーマに向けて、もう1ネタくらい何かないでしょうか。早めに議論しておきたいこと。

**濱田**：常田さんのタンギョの滝を進めると同時に、自分が提案した、誘導のサイン計画をしっかりとやっていくというのも絡めてはどうか。単発に見えるのではなくて、動線計画も含め、市のほうも含めて、そういうチームを組んで。それが一発目の事例になれば、周囲に普及していくっていう可能性もあるので、そこをリンクしていったらどうかなっていうのが、提案ですね、もう一つどうかなということに関しては。

**座長**：分かりました。では次回、常田さんのプレゼンテーションを中心にやりましょう。

**麓**：ちょっとよろしいでしょうか。この会の進め方の効率ももちろんあるとは思いますが、気になってることを。方針・方策とあって、私も抽象的なことをちょっと提案差し上げたところなんですけども、何かこの世界自然遺産に対して、あるいは環境文化に対する考え方の判断がバラバラになったまま前に進んで行くということが気になる。その抽象的というかモラル感というか、そういった定義づけの中から具体性を下ろしていくってところ。そういう共通性みたいなものを持たなくて、本当にそれぞれのカテゴリで御提案なさってますけども、それを進めていっていいのかちょっと怖くなったんですけど、そんなことって、改善されませんか。整合性が最終的に合わなくなるだとか、もちろん、皆さんの各カテゴリの中で、利害関係者もいる中で、何かしらそれを説得する、このまとまりのある、この指針というか、そういったものが整理されてないと。

環境文化自体は久さんも皆さんもおっしゃってますけども、なかなか、環境文化ということすごく抽象ラインでありますけれども、奄美としてはこう考えるというところを、奄美市として考えるというところは何かあって、そこから具体性を照らし合わせながら、おろしていくというのが。つじつまが合っていないとちょっと、この先の展開の行方が非常に怖いと感じる。

今の課題に対して議論するということは分かるんですが、この流れの整合性みたいなものを整備してなくても大丈夫かなあと。文化的な考え方ですけども、いかがでしょうか。

**喜島**：文化面、久留さんや麓さんがおっしゃっていることはすごく大事なことです。

**久留**：例えば一つ、ショショガマがあります。あれはアラセツなんですけれども、ちょうど北の文化と南（琉球）の文化とぶつかっている。それがこの奄美なんですよ。

島料理にしても、なぜ笠利が三献の発祥かというところにはちゃんと歴史がある。そういうのを

観光客ではなく、地域の人の一つ一つ知ることが非常に大事。そういうものがちゃんと根づいているのに、それを知っていかないと。

でもすごく今、皆さんの話を聞いていて、奄美の文化に造詣が深くてありがたいなど。だから本当に環境と自然と文化が一緒になれば、これはもう素晴らしいことになる。

**久野：**先ほどから不安で、この会議がどうやって進んで行くかという事に。皆思ってることは同じだと思うんですが、一回経済は置いて、奄美がどういう島になっていくのかという事を決めていただけないかと思います。

**常田：**今日の会議は、様々な人が集まって、各々考え方が違う。まずは多様な考えを出さないと逆に方向性が見つからない。私は色々な考え方があっていいと思っている。話し合ってる間に、方向性が見えてきて、必要ないと思ったら役所の方で切っていけばいいわけで。

**濱田：**せっかくこうやって集まったメンバーで、具体的に何も生み出せなかったら、何かいい話をしたねで終わってしまう。

**座長：**皆さんどうもありがとうございます。今の議論というのは、麓さんの発言が端緒だったと思います。何か目標となるもの、我々の理想みたいなものを作ってからじゃないのっていう。

この会議は年に6回しかないので、やはり成果を出すこと、別に要求されているわけではないんですけども、やはり形になるものを地域に還元したいという気持ち、私の中にもありまして。それを急いでしまいました。申し訳ありません。

それではですね、先ほど2本立てだって言いましたが、1本はそういう具体的な方策を議論する。どなたかにプレゼンして頂き、それをたたき台として、具体的にどうしましょうかと。

一方でもう1つは、飲み屋の議論みたいなので構わないと思うんですけども、今日で火が付い

たような議論を、後半の半分ぐらいでやればなど。そっちのネタをうまく使えるかどうかですよね結局。やっぱ誰かが話の口火を切らなきゃいけないので。

例えば次の会議であれば、やはり常田さんのプレゼンが発展していくんじゃないかなっていう気がします。どういようなものを作っていけばいいのか。今、これだけ3時間近くお話ししていて、かなり色々な議論が進むような感じがいたしますので、私はあんまり心配しておりません。

6回の会議なんですけれども、私も含めて、皆さん、世界遺産もこれからどうなってくるだろうということは非常に不安に思っちゃると思うんですね。その不安に対して、何らかの道筋なり答えなりを見つけていくのがこの会議の役割だろうなというふうに思います。ということで、改めてちょっと整理いたします、次回のネタを。

プレゼンテーションしていただくのが常田さんと、それからアシストみたいな感じで濱田さん。

あと山下さんの入島税。それぞれ時間は30分ぐらいで。

また、その次に麓さんと久留さんで、奄美の文化の在り方のような話でしょうか。

**麓：**先にさせて頂いてもよろしいでしょうか。抽象的な議題ですので先のほうがいいかなと。

**座長：**そうしますと、常田さん&濱田さん、麓さん&久留さんが次回でいかがでしょう。

それでは次回ですね、タンギョの滝の話と、奄美の文化の話でお願いしたいと思います。

多分これはこれで議論が非常に出てくると思いますので、皆さんの意見交換には非常に適した題材なのではないかと思います。

終了時間：17：00 ※会議時間3時間

次回会議：7/16（土）14：00～@5階会議室